

社 協 だ よ り

－ ふれあいで育てよう、ふくしの心 －

産山村社会福祉協議会
☎0967-23-9300
〒869-2703
産山村山鹿 488-3

子どもヘルパーの地域訪問活動

＊ゴールドクラブ訪問＊

6月23日（月）に子どもヘルパー活動として産山学園4年生の15名がゴールドクラブ（山鹿地区公民館で毎週月曜日に開催している通いの場）に参加しました。

子どもヘルパーに任命された4年生初の活動です。最初は緊張していた子ども達ですが、一緒に体操や“ピンポン玉スプーンリレー”や“お手玉遊び”、“肩たたき”等のレクリエーションを通して自然に笑顔が出ていました。

4年生からのダンス披露では、息の合ったダンスに会場みんなで大きく盛り上がりました。最後に全員で大塚正義さんのギター演奏に合わせて「上を向いて歩こう・365歩のマーチ・ぼくらはみんな生きている」を合唱しました。

参加者の方々からは、「遠く離れた孫を思い出して涙が出そうだった」「一人暮らしなので声を出すこともあまりないが、今日は本当に楽しかった。ありがとうございました。」「年に1度と言わずまた来てほしい」等々感謝の言葉を沢山いただきました。



＊自宅訪問＊振り返り・事前学習会＊

6月26日（木）は、産山学園の6年生と7年生が2人1組になり11件のお宅に分かれて訪問しました。

今回の第1回目訪問では、コミュニケーションを取り支援者の方のニーズを把握することを意識して活動しました。折り紙、トランプ、掃除等をしたり、質問表を使用して会話のきっかけを作ったり、学園生にも質問してもらいながらお互いの話をすることができました。

また、7月3日（木）は産山学園メディアセンターにおいて、第1回目訪問の振り返りと第2回目訪問に向けての事前学習会を実施しました。

1回目の訪問で、コミュニケーションを取って支援者のニーズを確認するというミッションは概ねクリアできたことを確認し、2回目の訪問でもっと支援者の方に満足してもらうにはどのような活動をするべきか、意見交換を行いました。学園生からは「支援者の方の好きな話をする」「自分も相手も笑顔になれるように活動する」などの意見がでました。

産山村社会福祉協議会の高橋、井からは、「相手に記憶をプレゼントすること（前回どんな話をしたかなど）」や「聞く姿勢と話すときの心構え」など、やはり笑顔や共感などコミュニケーションをとることが大切とお話がありました。それを受け、学園生からは「失敗を怖がらず、自信をもって話す」「目を見て話す」「話題をふってもらうだけでなく、自分から話す」と2回目訪問への意気込みが聞かれました。

次回は11月に第2回目の訪問活動を計画しております。支援者の方にもっと満足していただけるよう、しっかり準備をしていきます。

